



NPO法人 西東京臨床糖尿病研究会

MANO a MANO

～「mano a mano」とはスペイン語で「手から手へ」という意味です～

会員数人726人

医師 155人

コメディカル571人

管理栄養士派遣登録数 37人

《目次》

認知症とインスリン……………近藤甲斐夫先生	Page 1
研究会等の実施報告……………	Page 2・3
研究会他のお知らせ……………	Page 4

認知症とインスリン治療について

当研究会監事 近藤 甲斐夫

(医療法人社団糖和会 近藤医院 院長)

昭和50年頃、糖尿病学会や協会は、インスリン自己注射法を健康保険に認めさせるべく、猛烈な運動を続けていた。結局、昭和56年、遂に宿願は達成されたのだが、患者会も巻き込み、例えば、西東京地域では、各市市議会に働きかけ厚生省に対し要望書を提出してもらった。その後、成長ホルモンやインターフェロンなどの注射も健康保険適応が認められたようだ。(それまでこれらの治療方法は、健康保険適応外となり自費で多額の費用が掛かる。)

最近、糖尿病患者さんの致死的合併症の予防が奏効したのか、患者さんの高齢化が目立ち、これに伴う認知症の問題が浮上してきた。例えば喫煙者やインスリンを必要な人たちは、職員の数の少ない多くの老人施設から嫌われ、入所を断られたりする。注射教育を受けた家族や同居人なら、インスリンをしてあげてもよいが、医師やナース以外のいわゆる無資格者が行うことは医療法に抵触する。

ALS(筋萎縮側索硬化症)の患者さんの気管支カニューレから痰を吸引する行為も家族と医療従事者以外は禁止されていたが、特別な場合には生命に変えられない事が分かってももらえたらしい。ペン型注射器で、よく混ぜて、ダイアルが必要な所で回して手渡された患者さんが針を刺してボタンを押すのは駄目か?使った針の数を見ても、朝のインスリンをしたかどうか判断できない時ヘルパーさんに観るだけでもやってもらえないか?超持続型を1日1回だけでも、家族かナースにしてもらおう方が、やめてしまうより良いし、それに毎食前のナテグリニド内服をさせたらどうか?血糖自己測定は誰でも行って良いのか?往診を含めて、老人のシックデイに対応できる医師やナースはどのぐらいの数がどこに分散しているのか?

ところで・・・最近、近所で糖尿病昏睡とで亡くなったと云うような話を聞いたことがないのは何故だろうか?思えばきりが無い。

研修会等の実施報告

第8回 糖尿病予防講演会

平成19年10月13日(土) 「西東京市民会館」において開催されました



特別講演に、東京医科大学八王子医療センター医療情報局室長・内分泌代謝科教授 植木彬夫先生、講師の宮崎滋先生をお迎えし、『メタボリックシンドロームを阻止するために—その予防と診療の最前線—』をテーマに開催いたしました。

会場は、ほぼ満席となり、約300名の参加者が、終演まで演者の話に熱心に耳を傾けました。また、活発な質疑応答も行われました。参加者の方々にアンケートにお答えいただきましたので、一部ご紹介します。

- ・今回注目メタボリックシンドロームの話題でよかった、専門の分野の立場の人から講演があり良かった。
- ・普段は見られない画像を分かり易い説明をして分かり易かった。
- ・わかりやすかった。いろいろな専門の分野の立場の人からの話が聞けてよかった。
- ・短時間なのにとってもわかり易く説明していただいた。
- ・(抄録集は) 確かな内容で、良い資料になります。またパワーポイントの内容を掲載してほしいとのご意見も頂戴しました。
- ・もっと話が聞きたいと思うものの、短い時間の中でまとまった話題が聞けて良かった。
- ・実際の運動がよかった、コア・エクササイズが参考になった。
- ・食事のレシピが実際に作り易いようで良かった、運動も取り入れていて興味深かった。
- ・食事について、改めて自分の仕事の見直しに役立った。運動は今後、参考にして行こうと思います。



- ・食事のレシピが実際に作り易いようで良かった、運動も取り入れていて興味深かった
- ・大変為になりました。私もメタボなのでかなり注意をして生活をしたと反省しております。
- ・この様な講習会が少ないので続けてください。参加して良かった、次回も出席してみたい。

第42回 多摩北部医療センターと糖尿病に関する診療連携の会

平成19年10月15日(月)「多摩北部医療センター」において開催されました。



今回の世話人は東久留米市の石橋クリニック石橋先生がご担当されました。

こだま歯科医院小玉 剛先生から「糖尿病と歯周病」という内容でご講演を戴き、歯周病は糖尿病の第6番めの合併症という観点から実際の糖尿病における歯周病の進行機序について詳細なご説明を戴きました。

歯科医師は血糖管理や患者の糖尿病について問診をする機械が少なく、今後は歯科医師も必要に応じて糖尿病専門医と地域連携を図って行く必要があると小玉先生からご意見がありました。

石橋クリニックの石橋先生と研修医の先生から症例報告をして頂きました。症例報告について、参加をされた医師から血糖管理薬の選択、口腔管理について意見が出されたり管理栄養士からも栄養・食事指導の方法について意見が出されました。

この会の症例報告の患者さんの治療も今回の先生方の意見を参考にして治療管理を実施していく方針を採られるそうです。

演題では今後、歯科医師と糖尿病専門医と地域連携をして歯周病に罹患をすることによるリスクを減らして行く仕組みを作るなど活発な意見交換が行なわれました。



糖尿病罹患15年以上の患者の口腔について、症例を上げて詳細な説明。



歯科医師、糖尿病専門医、コメディルを含め活発な意見交換がされました。



研究会他のお知らせ

◆ 直接事業

◆ 間接事業

◆ 第18回 武蔵野糖尿病研究会 (※お申込が必要です。)

開催日：平成19年12月8日(土) 15:00~17:30

場所：武蔵野赤十字病院 山崎記念講堂 (JR中央線武蔵境駅下車徒歩10分)
(武蔵野市境南町1-26-1)

会費：500円

講演1：「持続血糖モニタリング(CGMS)からみた血糖コントロール」

東京慈恵会医科大学 糖尿病・代謝・内分泌内科 講師 西村理明先生

講演2：「実践！メタボ検診 - 実地医科は、どう対応するか」

菅原医院 院長 菅原正弘先生

※お申込用紙は当研究会ホームページよりダウンロードください。

※西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：2単位

◆ 第5回スキルアップセミナー (医師向け) 2007 (※お申込が必要です。)

開催日：2008年 1月20日(日) 10:30~15:40 (10:00開場)

場所：三鷹産業プラザ 701・702会議室 (JR中央線・総武線三鷹駅南口より徒歩7分) (三鷹市下連雀3-38-4)

参加費：会員5,000円・非会員8,000円・同伴スタッフ3,000円 (軽食付)

対象：糖尿病療養指導にあたる実地医科の先生方

テーマ：『これで納得、経口糖尿病薬—これで、明日からの診療が変わります—』

定員：30名 (定員に達し次第締め切り。但し同行スタッフは除く)

事務局からのお知らせ

【コメデカルの皆様へ】

11月号会報にアンケートを同封させて戴きました。まだご記入がお済みでない方はお手数ですがご記入の上、以下の方法でご提出をお願い致します。

●事務局宛にファックスでご送信をいただく方法

<FAX043-332-7478>

●事務局あてご郵送をいただく方法 (誠に恐縮ですが郵送料はご負担願います。)

<〒185-0012 国分寺市本町3-10-22 オリエントプラザ420号

NPO法人 西東京臨床糖尿病研究会 事務局宛>

・事務局の年末年始お休みのお知らせ

12月29日(土)~1月6日(日)までお休みとさせていただきます。

今年は、会員各位の皆様にお世話になりました。来年も宜しく願い致します

NPO法人 西東京臨床糖尿病研究会 事務局

〒185-0012 国分寺市本町3-10-22 オリエントプラザ 402

TEL: 042 (322) 7468 FAX: 042 (322) 7478